

借入金の返済について

銀行又は税理士に「借入金の返済の原資は？」と問いかけると、必ず「(利益 - 税金) + 減価償却費」という答えが返ってきます。

資金会計理論では、この答えにはなりません。返済は現金となります。当たり前ではないかと反論されそうですが、自社の損益資金が増えない限り、現金での返済はできません。この事は簡単に分かるように実は分かっています。

自転車操業という言葉をよく耳にしますが、それがどういう財政状態を指すのかご存知ですか。資金会計理論上の自転車操業とは、売上仕入資金のみがプラスで他の損益資金、固定資金、流動資金すべてがマイナスの状態を言います。固定資金の部の棚卸資産を損益資金のマイナスにして見る事が必要です。

既に倒産した大手企業や、現在の上場企業にもこの自転車操業と思われる企業は多く存在します。多店舗展開して売上が上昇している時は、必然的に売上仕入資金が増えるので、経営者が思う以上に資金に余裕が出来ていきます。その余剰資金を本業以外に投資し、実際の経営には必要のない余計な経費がかかり過ぎて失敗する例は多く見受けられます。

自社の資金別貸借対照表を作成する事はもちろんですが、他社の資

金別貸借対照表を作成して比較分析することをお薦めします。意外な事を発見することができると思います。

インターネット等で公表されている決算報告から、上場企業の資金別貸借対照表を作成してみてください。

作成について不明な点があれば当事務所にご連絡下さい。